

「慢性腎炎手記」匿名希望 21歳

2013年10月21日

「腎生検したらあかんで、やめときや腎臓が傷つくで医者のお金儲けやで」という叫びのような声が電話の向こうで聞こえてきました。友人から松本医院のこと聞かされ初めて松本先生に電話をしていた時の会話です。2008年のことですが、松本先生の話し方は熱意と迫力がありましたが変わったお医者さんだと思い初めはひいてしまいました。しかし私も先生からみれば厄介な患者の親だったかもしれません。自分のせいで息子を病気にしたと思い絶対に完治させることが自分の使命と考えなんども同じことをしつこく先生に質問してたりしていました。

遡れば2007年のもうすぐ中学三年生になろうというときに息子が喉の痛みと熱を訴えました。この時もしかして小学生の時から時々かかっていた溶連菌感染症かもしれないと考えましたが、インフルエンザがすごく流行っていて小児科は大混雑していたしもう中学三年生だと思って近くの個人病院にいきました。しかし小児科ではなかった為、溶連菌感染症を判断するためのキッドがなかったのでとりあえず1週間分の抗生物質をもらい飲みました。やがて熱も下がり溶連菌感染症の心配が薄れ油断していました。

しかし、春の学校の健康診断の尿検査で蛋白と潜血が出ているとの報告を受け驚きました。やはりあの熱は溶連菌感染症だったかもしれないと思い「初めから小児科に行って溶連菌感染症の検査を受けとけばよかった」とか「抗生物質を二週間分飲めばよかった」という後悔の言葉がぐるぐる頭の中をまわっていました。子供さんをもっている方ならわかると思いますが、溶連菌感染症にかかったなら二週間分抗生物質を飲まねばならないのです。これがはっきりとした原因とはいいきれませんがこの時から腎臓に異常がきたしたのです。今でもその後悔は頭の中をぐるぐる回っていて息子にすまないと思う気持ちでいっぱいです。

すぐに近くの総合病院の小児科に検査にいきました。いろいろ調べた結果「他に異常が見られないので起立性蛋白尿。」とのこと「潜血が出ているが害のないもの。」とのことを言われました。安心して一年間を過ごしていたのですが2008年には高校に入学した時またもや春の健康診断の尿検査で蛋白が3+潜血が2+と出っていたので念のため腎臓の専門医のいる病院へ行ってみました。医師に以前の検査によると、害のないものらしいことをお伝えすると

「一年も蛋白も潜血も続いていたら慢性腎炎です。」と言われショックでした。経過観察をマメに行けばよかったのですが息子は学校の行事で指を骨

折したり 転んで頭を切って縫ったりと 違う理由での病院通いに忙しく 腎臓のことは後回しにいていました。その病院の医師から「今のうちにちゃんと治療しておかないと5年後10年後には透析になる可能性がありますよ。」と言われますますショックをうけました。若いお医者さんでしたが誠実に心配して言って下さったとよいおもいます。根治療法として偏摘パルスという方法があると教えてくださいました。扁摘パルスとは扁桃腺を切ってその後ステロイドを投与する治療です。その前に腎生検をして腎臓の細胞取って調べたら詳しい事が分かるから是非するように 勧められました。その検査は背中から腎臓に針を刺し腎臓の細胞を採るという方法ですが、一週間の入院が必要とのことで、学校を休まねばならないし、その検査は随分痛みも伴うと聞いて、検査をためらっていました。ベルサンチンを出されとりあえず飲んでいましたが、トイレが近くなるようだし、副作用も怖かったので飲むのをやめていました。なんとか普通の学校生活をおくっていましたが、風邪をひいたなら真っ赤やどす黒い尿が出て何日か寝込んでしまう状態が一年に何回もありました。その時は心配で頭がおかしくなりそうでした。そうしているうち友人から松本先生のことを聞き、すぐにインターネットで調べ論文などを読んでみました。難しいことも書いていましたが 今まで病気のことをインターネットでいろいろと調べたけれども他と全く違って、納得ができ、なぜか希望をもつことができたので、早速電話を試してみました。その時の会話の一つが冒頭にあった言葉だったのです。

ちょっとびっくりしましたが、この先生ならステロイドを使わずに息子の腎臓を治してくれると思い大阪までいきました。

自分のせいで息子が腎臓を患ってしまったことにすごく責任を感じていたので本人より私がとにかく必死でした。先生は想像した通り とても個性的で楽しい方でした。「何かあったら電話するように。」と携帯電話の電話番号を教えてくださいたり、親身なって考えてくださり感激しました。息子は煎じた漢方を飲みづらそうにしていたのですが次第に慣れてきました。

しかし漢方を飲めば すぐによくなると期待していたのですが 一年たっても二年たっても三年たっても四年たっても蛋白も潜血も消えずしかも、少しよくなったと思ったら風邪をひいていつものようにどす黒い尿が出て、腎臓のあたりの腰が「痛い痛い」と言って苦しんでいました。

ある時などは、流行性胃腸炎にかかって嘔吐してしばらくしたら、どす黒い尿が出、「鼻の奥が痛い。」とあって寝込んだかとおもえば、熱が出なくても、どす黒い尿が出て大変でした。でもいつも風邪の漢方薬と 抗生物質を送って頂いていたのでその都度、服用してなんとかきりぬけていきましたが、風邪の度に腎臓はダメージを受けているように思えました。

完璧とはいえないものの玄米を食べたり、塩分や砂糖 添加物に気を付けた食事などもしてきましたが、三年を過ぎたころ、なかなか良くならない

ことにイライラして 「先生いつまでこの薬を飲まねばならないのですか」と八つ当たりをしてみたり、「いつになったら蛋白がなくなるのですか。」と試してみたり、腎臓の仕組みについてや症状についてなど、同じ質問を何度も繰り返しておこなっていました。その度に「あのな腎臓にはネフロンがあって無数の血管があってなそこが傷付いてしまうと穴があいて蛋白が漏れてしまうんや。」などと根気よく分かりやすく丁寧に答えてくださり それを聞いてその都度、私はとりあえず納得し少し落ち着くことができました。しかし、3年も4年も漢方薬を飲んでも息子の蛋白も潜血も沢山出ているということは腎臓が悪化しているのではないかと思ひ込み気落ちしていました。しかし、とにかく松本先生を信頼し怒鳴られたり、励まされたり、何度も何度も説明してもらったり、また繰り返しインターネットに載せられている 論文や体験談先生のコメントを読んで希望を持つようにしていました。

2年ぐらい前から腸炎になったことがきっかけで 地元の内科の病院にも腎臓の状態の経過観察のため4か月に一度の頻度で通院するようになりました。息子はすでに社会人になっていた為、忙しくてなかなか松本医院に行き検査が出来なかったのになんとなくそのようにしたとおもいます。もちろん、その病院の医師には、漢方を飲んでいるということをしつかり伝えていました。

その病院では検査で血液検査の他に「24時間蓄尿」といって家で尿を丸一日溜めてその中にどれだけの蛋白が出ているのかを調べる検査をします。浮腫みがなく血液検査での数値も悪くないのですが、とにかく蛋白の量が多いのです。特に一年くらい前など 蛋白の量が正常な人の5倍くらいあって 何回検査しても 高い数値になのです。腎生検を随分勧められましたが息子も私も同意しませんでした。随分不安でしたが、松本先生に「息子さんは元気で仕事にいつとんやったらええやないか。大丈夫や」と励まされていました。

そうしているうち、今年の2月インフルエンザが流行っている時に、予防のため、部屋ではデュフューザーでアロマをながしたり、うがいをしたりしていろいろと気を付けていたのに、息子はインフルエンザらしきものにかかってしまい、高い熱を出してしまいました。また、あのどす黒い尿が出て 蛋白も潜血もマックスな数値になってしまうのかと、心配していたらなんと、潜血はほとんどでておらず、蛋白もわずかししか出ていなかったのです。ビックリでした。葛根湯を飲んで、なんとか 熱も早く下がり元気に回復しました。完治まであとわずか、これで蛋白尿とはおさらば、と思っていました。簡単にはいきませんでした。そののち自信をもって行った24時間蓄尿が またもや結果が随分悪くがっかりしましたが、風邪をひいた時に血尿が出なかったことが、息子も私もすごい励みになりました。その後漢方を飲む以外に鍼、灸など諸々頑張ってみました。すると、次の検査ではぐっと数値が良くなって 正常の数値に近くなってきていました。だいたいこういう検査はその時の体調とか、食べた物とかで影響が多少はあると思いますけど、検査した地元の医師も「これなら腎生検はいまのこいなくていいでしょう。」と言ってくださいました。まだ蛋白

は少し出ています、全く以前と同じ状態になったというわけではありませんが、潜血も蛋白も少なくなり、そして風邪をひかなくなって本当に元気になったと思います。

腎臓を患って6年 松本先生にお世話になって4年半経ちました。その間先生にすごい怒鳴られたことがあり、めげそうなこともありました。強気な励ましによってここまでこれました。何よりも、ホームページに載せられていた論文やコメントなどを読む事によってステロイドの副作用について、また病気や免疫がどういうものかが理解することが出来たことが、大きな助けになりました。特に腎臓の構造や機能や腎炎の詳しい原因など今までインターネットで調べたり本を読んでみたりしましたが、大まかなことしか書いてなくてこのように事細かに説明しているのは見たことがありませんでした。中でも、「糸球体の足細胞のスリット膜をリズムカルに伸び縮みさせて毛細血管をしごくようにマッサージして必要に応じて血液をろ過している。」という部分なんかは人間の身体、特に腎臓の作りはすごいことだどつくづく実感し、この様な繊細な部分が傷付いたのだから、それは修復に時間がかかるはずだとわかりました。「この足細胞の壊れてしまったスリット膜の穴は足細胞が分裂出来ないために閉じられないのであれば、足細胞が大きくなる」とありましたのでとにかくそれに期待して完全にふさいでくれる日を楽しみにしています。書いてあることがあまりにも難しい為、多くの方は完璧に理解をすることは難しいと思います。しかし、治療をするにあたり、最前の決定する為には専門知識は必要だと思いました。

この度は息子のことでいろいろと大変な思いをしましたが、沢山の知識を得られたことは今後何か他の病気治療のことで決定をしていくうえでとても役に立っていくと思います。

松本先生をはじめ病院のスタッフの皆様にお世話になりました。まだこれからもお世話になることがあると思いますのでよろしくお願い致します。